

14時30分解禁

平成19年10月 全国百貨店売上高概況

平成19年11月19日

I. 概況

1. 売上高総額	6,260億円余
2. 前年同月比	-1.4% (店舗数調整後/2か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	94社 279店 (平成19年9月対比+1店)
4. 総店舗面積	6,809,648㎡ (前年同月比: 0.1%)
5. 総従業員数	102,885人 (前年同月比: 11.9%)
6. 3か月移動平均値	3-5月 -1.1%、4-6月 1.2%、5-7月 -0.1%、 6-8月 0.4%、7-9月 -2.1%、8-10月 -1.0%

【参考】平成18年10月の売上高増減率は-1.9% (店舗数調整後)

【10月売上の特徴】

2か月連続の前年同月比マイナスとなった。

10月は前半まで残暑が続いたため、衣料品を中心とした秋物商材に対するマイナスの影響が大きかった。月の後半からは気温の低下傾向も見られ秋物がようやく動き始めたものの、暦の関係で日曜日が1日少なかったことや下旬の台風接近による悪天候も影響して、最終的には前年売上にわずかに届かなかった。

地区別に見ると、全館改装や各種イベント等の効果で対前年比プラスとなった東京地区をはじめ大都市部が比較的堅調であった一方、競合激化や地域経済不振等の構造要因もあって地方都市ではマイナス幅が大きく出ている。

また現状では、原油高、サブプライム問題、円高株安など、マクロ的な環境与件の百貨店売上に対する影響は未だ明確ではないが、こうした経済情勢と景気の先行き不透明感が、歳末商戦にどのような影響を及ぼすかという懸念も出てきている。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「10月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)

◇ 高気圧に覆われて暖かい日が多かったため、寒気の影響で中旬に低温となった北海道を除き、月平均気温は高かった。西日本では九州地方を中心に11地点で10月の月平均気温の最高値を更新した。

(2) 営業日数増減 30.8日 (前年同月比-0.1日)

(3) 土・日・祝日の合計 9日 (〃 -1日/日曜1日減)

(4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)

①増加した: 28店、②変化なし: 49店、③減少した: 70店、④不明: 46店

(5) 10月歳時記 (体育の日、旅行シーズンの売上 (同上))

①増加した: 9店、②変化なし: 77店、③減少した: 32店、④不明: 75店

(6) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値)

①増加する: 25店、②変化なし: 104店、③減少する: 12店、④不明: 52店

全国百貨店 売上高速報 2007年10月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	626,058,441	100.0	-1.4 (-1.4)
10都市	401,192,172	64.1	-1.0 (-1.6)
札幌	16,277,266	2.6	-7.7
仙台	8,297,680	1.3	-0.7
東京	158,223,613	25.3	0.6
横浜	33,590,370	5.4	-0.2
名古屋	37,820,077	6.0	-4.2
京都	24,139,218	3.9	1.8 (-3.9)
大阪	76,554,825	12.2	-2.1
神戸	16,658,232	2.7	-0.7
広島	12,863,832	2.1	-4.0
福岡	16,767,059	2.7	-0.2 (-5.5)
10都市以外の地区	224,866,269	35.9	-2.3 (-1.3)
北海道	5,694,665	0.9	9.8
東北	12,930,083	2.1	-4.9
関東	106,813,217	17.1	-1.7 (1.0)
中部	17,169,775	2.7	-5.6 (-8.5)
近畿	20,151,328	3.2	-0.1
中国	15,814,382	2.5	-1.8
四国	11,994,944	1.9	-3.4
九州	34,297,875	5.5	-4.2

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	626,058,441	100.0	-1.4 (-1.4)
紳士服・洋品	51,943,372	8.3	-2.5 (-2.2)
婦人服・洋品	170,465,831	27.2	-3.6 (-3.7)
子供服・洋品	16,364,886	2.6	-2.1 (-1.9)
その他衣料品	20,264,438	3.2	2.2 (2.3)
衣 料 品	259,038,527	41.4	-2.9 (-2.8)
身のまわり品	82,021,370	13.1	-2.2 (-2.2)
化粧品	28,677,365	4.6	2.4 (2.5)
美術・宝飾・貴金属	31,712,465	5.1	-1.4 (-1.5)
その他雑貨	27,366,789	4.4	-3.3 (-4.5)
雑 貨	87,756,619	14.0	-0.8 (-1.2)
家 具	10,391,743	1.7	2.4 (2.1)
家 電	3,113,265	0.5	-11.8 (-11.8)
その他家庭用品	20,431,833	3.3	-1.0 (-1.0)
家 庭 用 品	33,936,841	5.4	-1.1 (-1.2)
生 鮮 食 品	30,532,352	4.9	2.5 (2.8)
菓 子	29,962,829	4.8	2.8 (2.9)
惣 菜	32,724,850	5.2	1.6 (1.5)
その他食料品	39,417,834	6.3	0.9 (1.2)
食 料 品	132,637,865	21.2	1.9 (2.0)
食 堂 喫 茶	15,888,546	2.5	-3.1 (-2.7)
サ ー ビ ス	6,295,137	1.0	2.1 (2.7)
そ の 他	8,483,536	1.4	-6.8 (-7.8)
商 品 券	17,685,439	2.8	-3.1 (-3.2)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | -1.0% (店舗数調整後/2か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -2.3% (// /4か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-1.0	-0.6	2か月連続マイナス
札幌	-7.7	-0.2	2か月連続マイナス
仙台	-0.7	0.0	3か月ぶりマイナス
東京	0.6	0.2	2か月ぶりプラス
横浜	-0.2	0.0	2か月連続マイナス
名古屋	-4.2	-0.3	3か月ぶりマイナス
京都	1.8	0.1	12か月連続プラス
大阪	-2.1	-0.3	2か月連続マイナス
神戸	-0.7	0.0	2か月連続マイナス
広島	-4.0	-0.1	4か月連続マイナス
福岡	-0.2	0.0	3か月ぶりマイナス
10都市以外の地区	-2.3	-0.8	4か月連続マイナス
北海道	9.8	0.1	札幌の10都市への移行により 1月以降初のプラス*
東北	-4.9	-0.1	10か月連続マイナス*
関東	-1.7	-0.3	4か月連続マイナス
中部	-5.6	-0.2	4か月連続マイナス
近畿	-0.1	0.0	4か月連続マイナス
中国	-1.8	0.0	4か月連続マイナス*
四国	-3.4	-0.1	4か月連続マイナス
九州	-4.2	-0.2	2か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行したため(2005年までは6大都市)、連続性の観点から2007年からのトレンドとした。

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目では、プラスは食料品、マイナスは衣料品、身のまわり品、雑貨、家庭用品。化粧品・菓子は前年比較を開始して以来10か月連続プラス。また、その他衣料品・家具・生鮮食品・惣菜・その他食料品がプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-1.4	-	2か月連続マイナス
紳士服・洋品	-2.5	-0.2	2か月連続マイナス
婦人服・洋品	-3.6	-1.0	4か月連続マイナス
子供服・洋品	-2.1	-0.1	4か月連続マイナス
その他衣料品	2.2	0.1	4か月ぶりプラス
衣料品	-2.9	-1.2	4か月連続マイナス
身のまわり品	-2.2	-0.3	2か月連続マイナス
化粧品	2.4	0.1	10か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-1.4	-0.1	8か月連続マイナス*
その他雑貨	-3.3	-0.1	4か月連続マイナス*
雑貨	-0.8	-0.1	2か月連続マイナス
家具	2.4	0.0	3か月ぶりプラス
家電	-11.8	-0.1	8か月連続マイナス
その他家庭用品	-1.0	0.0	2か月連続マイナス
家庭用品	-1.1	-0.1	2か月連続マイナス
生鮮食品	2.5	0.1	6か月連続プラス*
菓子	2.8	0.1	10か月連続プラス*
惣菜	1.6	0.1	3か月連続プラス*
その他食料品	0.9	0.1	2か月ぶりプラス*
食料品	1.9	0.4	3か月連続プラス
食堂喫茶	-3.1	-0.1	3か月ぶりマイナス
サービス	2.1	0.0	20か月連続プラス
その他	-6.8	-0.1	4か月ぶりマイナス
商品券	-3.1	-0.1	4か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品についての推移は2006年1月から細分化したため、2007年の10か月のみの推移

平成19年10月 東京地区百貨店売上高概況

平成19年11月19日

I. 概況

1. 売上高総額	1,582億円余
2. 前年同月比	0.6% (2か月ぶりプラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭1.0% (87.0%) : 非店頭-1.5% (13.0%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 28店 (平成19年9月対比±0社0店)
5. 総店舗面積	964,965㎡ (前年同月比: 1.8%)
6. 総従業員数	19,416人 (前年同月比: 3.6%)
7. 3か月移動平均値	3-5月 -1.1%、4-6月 2.2%、5-7月 1.1%、 6-8月 2.1%、7-9月 -1.1%、8-10月 0.8%

[参考] 平成18年10月の売上高増減率は-1.3% (店舗数調整後)

【10月売上の特徴】

- (1) 東京地区10月の売上は2か月ぶりのプラスとなった。要因としては、都内一部店舗で売り尽くしセールや周年記念イベントが寄与した影響が大きい。
- (2) 月前半の残暑の影響があり、本来、コート等冬物衣料の実需期に入るべき時期ではあったが、その出足は若干鈍い状況にある。
- (3) 主力の婦人服については、最近の傾向として、ワンピースが好調を維持しているが、その反動でニットやジャケット等単品コーディネート商品が苦戦しており、結果、買上点数・購買額共に減少した。
- (4) 婦人靴についても、最近のブーツィー(ショートブーツ)の流行を反映して、高単価のロングブーツの売上にマイナスの影響が出ている。
- (5) 食料品については、引き続き菓子類の好調さが目立っている。
- (6) 歳暮・おせち等歳末商戦の出足はまずまずの状況にある。
- (7) その他、最近の注目商品としては、「柄物のタイツ」「カラータイツ」の人气が高くなっている。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.7日 (前年同月比-0.3日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
 - ①増加した: 4店、②変化なし: 6店、③減少した: 11店、④不明: 1店
- (3) 10月歳時記(体育の日、旅行シーズン)の売上(同上)
 - ①増加した: 1店、②変化なし: 7店、③減少した: 5店、④不明: 9店
- (4) 翌月売上見通し(回答店舗数で見る傾向値)
 - ①増加する: 3店、②変化なし: 16店、③減少する: 1店、④不明: 2店

東京地区百貨店 売上高速報 2007年10月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	158,223,613	100.0	0.6
紳士服・洋品	15,643,412	9.9	1.1
婦人服・洋品	40,938,417	25.9	-2.9
子供服・洋品	2,919,662	1.8	1.7
その他衣料品	4,519,714	2.9	4.6
衣 料 品	64,021,205	40.5	-1.2
身のまわり品	22,858,839	14.4	3.3
化粧品	7,182,158	4.5	3.7
美術・宝飾・貴金属	9,737,516	6.2	1.0
その他雑貨	8,532,544	5.4	0.1
雑 貨	25,452,218	16.1	1.4
家 具	2,903,293	1.8	4.0
家 電	1,628,413	1.0	-15.3
その他家庭用品	5,351,597	3.4	1.5
家 庭 用 品	9,883,303	6.2	-1.0
生 鮮 食 品	4,808,746	3.0	9.1
菓 子	7,216,983	4.6	8.4
惣 菜	7,395,788	4.7	1.2
その他食料品	9,084,890	5.7	3.5
食 料 品	28,506,407	18.0	5.0
食 堂 喫 茶	3,440,715	2.2	-6.7
サ ー ビ ス	1,823,271	1.2	-0.7
そ の 他	2,237,655	1.4	-10.7

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

○本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	3,566,103 千円	0.5
従 業 員 数	19,416 人	3.6
店 舗 面 積	964,965 m ²	1.8

営 業 日 数	30.7日	前年	31.0 日
---------	-------	----	--------

NEWS LETTER

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、身のまわり品、雑貨、食料品がプラス、マイナスは衣料品、家庭用品。化粧品・菓子は10か月連続プラス。美術・宝飾・貴金属は前年比較を開始した1月以降初のプラスとなった。また、紳士服洋品・子供服洋品・その他衣料品・その他雑貨・家具・その他家庭用品・生鮮食品・惣菜・その他食料品がプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	0.6	—	2か月ぶりプラス
紳士服・洋品	1.1	0.1	2か月ぶりプラス
婦人服・洋品	-2.9	-0.8	2か月連続マイナス
子供服・洋品	1.7	0.0	4か月ぶりプラス
その他衣料品	4.6	0.1	3か月連続プラス
衣料品	-1.2	-0.5	2か月連続マイナス
身のまわり品	3.3	0.5	6か月連続プラス
化粧品	3.7	0.2	10か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	1.0	0.1	前年比較を開始した1月以降初のプラス*
その他雑貨	0.1	0.0	2か月ぶりプラス*
雑貨	1.4	0.2	2か月ぶりプラス
家具	4.0	0.1	6か月ぶりプラス
家電	-15.3	-0.2	3か月ぶりマイナス
その他家庭用品	1.5	0.1	2か月ぶりプラス
家庭用品	-1.0	-0.1	2か月連続マイナス
生鮮食品	9.1	0.3	6か月連続プラス*
菓子	8.4	0.4	10か月連続プラス*
惣菜	1.2	0.1	2か月ぶりプラス*
その他食料品	3.5	0.2	3か月連続プラス*
食料品	5.0	0.9	3か月連続プラス
食堂喫茶	-6.7	-0.2	2か月連続マイナス
サービス	-0.7	0.0	18か月ぶりマイナス
その他	-10.7	-0.2	12か月連続マイナス
商品券	0.5	0.0	2か月ぶりプラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品についての推移は2006年1月から細分化したため、2007年の10か月のみの推移

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>